

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600178		
法人名	株式会社実喜		
事業所名	つまごい笑みの里暖輪		
所在地	群馬県吾妻郡嬭恋村大字今井下石津1287-68		
自己評価作成日	令和4年3月2日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症対応型共同生活事業所なので、その方一人一人のペースで生活できるようにしています。また職員は、入居者様の今この瞬間を大切にしていこうと心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

業務の流れを決めないで、利用者の状況を見ながら利用者本位の支援に取り組んでいる。とかく業務優先になりがちで、今、利用者が何を必要としているか、どう対応しなければならないか、利用者を見る眼が養われており、利用者への支援が優先されている。また、「朝はパン食にしてほしい」、居室へはいつでも戻れる、といった利用者が思いのままに過ごしている様子から、グループホームの生活に捉われない自由度の高さがうかがえた。それは、利用者本位で個性のある介護計画がしっかり作成されていること、運営者の「ケアは流れ作業になってはいけない。利用者は一様ではない。個を重視したケアの実践が大切である。」という開所の動機になった考えによるものであることがわかった。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和4年3月18日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【その人らしく過ごすことができる】と言う事を大切にしています。入居者様の対応が統一して行えるように、申し送りやカンファレンスを行っています。	利用者の要望には忘れずに対応し、帰宅願望がある利用者を遠目で見守るケアに統一したり、利用者ごとに認知症状が違うことを特徴として捉え個別支援に取り組み、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近年では、新型コロナウイルス感染症によりイベント中止や、外出もできにくくなっています。しかし、地域の住民の方が雪かきを手伝ってくれたりすることもあり、地域の皆様とのつながりができてきています。	イベントが全面的に中止となる等地域の情報は地元に住む運営者、管理者から得ている。移動販売のパン屋さんの訪問は変わらずある。秋口から熊が出没しており、散歩等も見合わせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村内の方から、どのような施設で、どのような方が対象であるか、またどうすれば入所できるのが等聞かれることがあるので、聞かれたときにはその都度対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの拡大により、感染対策として中止しています。運営推進委員会の方々には資料を作成し郵送にて運営内容は周知してもらっています。	現在は書面開催としている。入居者現況報告、行事報告を「笑みの里暖輪状況報告書」としてまとめ、家族、行政、その他の運営推進会議のメンバーに郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者様の利用状況や、生活のレベルなどの報告をしたり、新型コロナウイルスの感染対策のこと等情報交換をしたり協力関係を築いています。	介護保険の更新代行、認定調査の立会いをしている。また、コロナ感染や熊の出没についての情報交換等を通して、町役場担当者との連携、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフの人数や・配置・その日の入居者様の精神状況により、自動ドアを手動に切り替えています。また、拘束になる言葉かけにも注意するようにしています。	電子錠は切っているが玄関は熊の出没もあり閉めている。家族の同意を得て、センサーマットを使用している。入院中から抑制衣を着用の利用者が入居後は脱ぐことができ、制止をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議などで、虐待について理解し、話し合うようにし虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要になった場合、関連施設や村の担当の方と相談し、協力し支援していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、入居者様・ご家族様に対して理解しやすいように説明し、契約内容を十分に理解して頂いてから契約しています。解約の際も、同様に理解して頂き同意の上で解約の手続きを行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウィルスの拡大により、感染対策として面会を中止している為、何かある際は電話にて連絡をしご家族様の意見を聞き反映するようにしています。	介護計画の変更や見直し時、受診後に様子や経過報告をする時、家族と話をし意見や要望を聞くようにしている。家族から利用者のことを尋ねられた時はズームで様子を見てもらう工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や業務に関しての意見や提案は、スタッフから申し出があった場合、スタッフ会議などで議題に上げて、話し合いをしてから必要に応じて変更し、よりよい運営ができるようにしています。	職員が気軽に話せる雰囲気があり、現場の判断に任せて職員の意見や提案を取り入れている。また、管理者はケアマネジャーと相談の上運営に反映させ、業務を進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の生活環境を把握し、意見を聞きながら就業時間や就業形態を考えています。また就業実績に応じて評価をしそのうえで昇給などを考えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近年は、新型コロナウィルスの影響で外部の研修や講演会に行く機会がないのですがまた安心して研修に行けるようになったら参加してもらいたいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウィルスの影響で、勉強会や、村内の会議なども中止になっているため同業者との交流の機会があまりないのですが、受診の際等の情報交換を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様には、事前にその方に会いに行き情報収集をしています。それをもとに、紙面にて職員に提示し共有し入居後も安心して生活してもらえるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には入居する家族の方にも会い、入居者様の生活歴や生活状況を伺い、どんなことに困っていてできる事や、出来ない事の把握を行いどのようなサービスが必要か話し合います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面会をもとに、今後はどのような支援をして行けばよいかを話し合い、その方や家族の方にあったサービスが提供できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生活をする中で、安心してその方らしく生活できるように入居者様一人一人に合った声掛け等を行い安心して生活で来るようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には、入居後の生活の状況・身体状況に変化があった場合は必ず連絡をし一緒に考えていけるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の馴染みの人に会う事や、行くことが出来ないのが現状ですが可能な限り、お孫さんに写真を送ったり、しています。	コロナ禍にあり、家族とはズーム面会で顔を合わせ、元気な様子を伝えたり、電話をしたという利用者の要望に応え、関係性の継続を支援している。また、「朝はパン食」という食習慣も続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格など、不穏の兆候などを把握し席を考慮しています。しかし、トラブルがいつ起きるかはわからないので、その日の表情や言動には十分注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際は、終了後も相談しやすいような声掛けをするように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様がどのような暮らしをしていたか、また入居後はどのような生活を送りたいかを会話の中から探り、希望に沿って生活ができるようにしています。	利用者と直接話をする中で思いや意向を把握している。ケアマネジャーは他の職員から利用者の情報を聞き、介護計画作成時、見直しの時、その都度家族からも意向を聞き計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、入居者様の生活歴や病歴、今現在の生活リズムなどを把握し、その情報をスタッフで共有するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズムや、定期受診・生活状況等の情報を記録し、共有することで現状を把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人の思いを暮らしの中で理解し、ご家族とも電話にて話し合い、また必要であればその他の関係者とも相談し、本人にとってよりよい生活が送れるように介護計画を作成しています。	月1回モニタリングをし、3ヶ月ごとに介護計画の見直しをしている。その際担当者会議を開いている。ケアマネジャーは介護計画に沿ってケアが実践されているか、毎朝の申し送り確認することに努め、状況によって計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況・受診時の様子などを状態把握や個人生活ノートに記入し、職員全員が把握できるようにしています。また受診の際に変化があった場合は家族とも連絡を取り、介護計画の変更や追加をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様が日々生活する中で生じる様々なニーズに沿えるような柔軟なサービスが提供できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を理解したうえで、入居様が穏やかに安心して生活できるように心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所する前には必ず、主治医を確認しています。また協力病院の受診で良ければ職員対応で受信可能なことも説明しており入居後も適切な医療をうけられるようにしています。	協力医であるクリニックへの受診であれば職員が付添えることを説明している。協力医の判断で通院が難しくなった場合は往診に変えることができる。歯科は家族に相談し、受診を任せている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診の際は、内容を状態把握に記入することを徹底しています。又、処置などの指示が出た場合は、看護職に伝達し施設内でも的確な看護ができるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居様が入院した際は、入院先の地域連携室と連絡を取り入院中の情報や状態などを聞き入居様が早期退院できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合には、今後起こりうる状態・終末期について本人・家族と話し合い、今後について協力医・職員等の関係者と話し合い、適切な支援ができるようにしています。	重度化に向けた指針はあるが、看取りの事例はない。同意がある利用者については症状が進み、急変した場合、救急搬送するかどうか主治医と連絡をとりながら、支援に取り組むことになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成しており、スタッフで共有できるようにしています。また、救急車の要請手順を作成し誰でも対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接しているホームで協力しあい、避難できるように訓練を行っています。	年2回、春と秋に消防避難訓練を実施し、利用者も水消火器での訓練に参加している。備蓄品の確保の仕方を検討しながら、水、米、缶詰等の他、排泄用品を多めに用意している。	利用者、職員の生命を守るためにも、いざという時に備えて自主訓練を実施し、さらに回数を重ねていく取り組みをしてはいかかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の人間性を尊重し、声掛けや接し方を考慮し対応しています。又、入居者様のペースで生活できるように配慮しています。	一人ひとりの利用者の特性を理解し、その人らしさを尊重すること、また、個人情報の保護を心がけている。異性介助になる場合は同意を得てからとし、話しかけ方や声のトーンにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が、業務に追われ慌てて行動せず余裕をもって行動するように心がける事で入居者様が思っている事、感じている事を言えるような環境・人間関係を築けるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望を聞いたり、生活の中でその方がどのように生活していきたいかなどに気づき、その希望に沿った生活ができるように毎日取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今現在は、新型コロナウイルスの影響で希望時に訪問してもらうのではなく、2.3ヶ月おきに美容師に訪問してもらい、散髪できるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるように、毎食の献立を記入し提示しています。キザミやミキサー食の方には献立の説明をしています。	配食サービスを利用する他、伝統食や行事食、採ってきた山菜等馴染みの食材を調理し提供している。食べにくかった物や、朝食をパンにする等の意見や要望に応じている。職員は検食をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食観察し、記録しています。水分摂取状況は夏場や、入居者様の身体状態により観察するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個別に声掛けを行い、行っています。ADLに合わせて見守りや軽介助をし口腔内の清潔保持を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄動作の状態を観察し、その方にあった支援をするよう心掛けています。また排泄状態の変化がある場合は、職員で相談してその都度検討しています。	トイレでの排泄を基本としている。利用者によって日中は布パンツ、夜間はパット使用等柔軟に対応し、利用者の排泄に対する信念とプライド、羞恥心を損ねない配慮ある自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の予防や改善を心がけて、定期的な運動や水分摂取をするように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表はなく、入居者様の気分や体調にあわせ入浴してもらうようにしています。	入浴は午前を基本としているが、行事がある日は午後に変更し、利用者は1日おきに入浴している。外の寒そうな様子やその日の気分で拒否も見られるが、職員は毎日入浴を促す声かけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して睡眠ができるように、寝具や家具の持ち込みは可能としています。また、昼夜逆転してしまいそうなときには、なるべく日中起きてもらえるような声掛け・対応を考えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服状況・内服情報は職員一同共有できるようにしています。また、変更があったときは申し送りをし、状態把握ノートにも記入し全員が見られるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や入居時に聞いた情報をもとに、その方にあった時間を過ごし、生活できるように心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある際は、天候や外の環境により可能な限り散歩に行けるようにしています。また新型コロナウイルスの影響で外食はできなくなっていますが、ダムなど桜を見にいったりドライブをするように心がけています。	厳寒期にあることや熊の出没で、近所の散歩等日常的な外出は難しいが、お花見や紅葉狩りの季節にはドライブをし、利用者の気分転換を図る支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援の際は、支払いができる方にはしてもらっていましたが今現在の入居者様の現状では難しくなっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したいと希望ある際は、希望に沿って控えている番号に電話を掛けて対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、天窓から自然な光が入るようにしており、外出があまりできない入居者様が外の空気を感ずる事が出来るようにしています。また、四季折々の作品を作り、玄関や居室に飾るようにしています。	お雛様等を飾り季節感を出す工夫をしたり、手作り作品、見易い場所にカレンダーを掲示し、大人の空間となるよう取り組んでいる。また、コロナ感染予防、生活臭対策のため換気を心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるホールは固定の席は決めずにその日、その時の気分で座ってもらう様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、なじみのある家具、寝具、などが持ち込み可能なことを話しており、入所後も過ごしやすいような環境づくりを心がけています。	馴染みの家具や寝具、テレビの他、夫の遺影や神社のお札を持込んでいる。いつでも居室に戻れるよう室温調節をしたり、居室に鍵をかけて居心地よく、落ち着いて過ごすよう見守っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の残存機能を理解し、把握し共有してその方にあった生活空間を作り、生活支援ができるようにしています。		